

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	総合政策研究科
大項目	5 学生の受け入れ
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 減少傾向にある院生数に歯止めをかける方法を2010～2012年度に検討し、順次、実施に移す。	→大学院生の定員充足率	C
2. 総合政策学部・成績優秀者の内部進学者を増やす方法を2010年度中に検討し、実施する。	→総合政策学部からの内部進学者で成績上位50番以内の学生数	C
3. 社会人大学院生を増やす方法を2011年度までに検討し、2013年度までに院生数に占める割合を3分の1に増やす。	→社会人大学院生の院生数に占める比率	D
4. 留学生の数を増やす方法を2012年度までに検討し、アジア諸国を中心に国の多様化も図る。	→大学院留学生の総数と留学生の国の数	C
5. 英語のみで修了可能なコース（国際開発戦略コース）の院生数を2013年度までに10名に増やす。	→英語での修了コース（国際開発戦略コース）の大学院生の数	D
6. 「災害復興コース」「一級建築士インターンシップ科目」を新たに設置し、それぞれのコースに所属する院生を5名確保する。	→「災害復興コース」「一級建築士インターンシップ」に登録する大学院生の数	D

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目5.0.1	(方針) 総合政策研究科は、高度専門職業人の育成を目的とし、現実社会と連動した課題に取り組むため、多様な研究領域において、学際的・複合的なアプローチによる研究を行う。広く社会からの人材を集めるため、社会人を積極的に受け入れている。また、地球規模での政策課題に取り組むため、国際的な教育・指導を行う講義を設定し、留学生を積極的に受け入れている。 (現状説明) 2011年度入学生を対象としてアドミッションポリシーを作成し、明示した。
☆ 小項目5.0.2	(現状説明) 適切に実行している。
☆ 小項目5.0.3	(現状説明) 現状では在籍学生数が収容定員の4割弱にとどまっている。
☆ 小項目5.0.4	(現状説明) 大学院入試制度検討委員会において検討を行っている。
☆ その他	

《特定6項目データ》

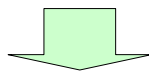
本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【総合政策研究科】			前期/後期課程	単位	2006	2007	2008	2009	2010	備考
指標1	入学者に占める一般入試入学者の比率	前期課程	%	65.2%	68.4%	75.0%	52.9%	52.4%	一般入試入学者数÷入学者数	
		後期課程		100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%		
指標2	志願者総数	前期課程	人	31	28	22	21	31		
		後期課程		3	1	0	2	0		
指標3	志願者倍率	前期課程	%	62.0%	56.0%	44.0%	42.0%	62.0%	志願者÷入学定員	
		後期課程		60.0%	20.0%	0.0%	40.0%	0.0%		

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
☆ 小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	



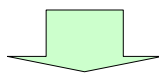
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
☆ 小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
☆ 小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
☆ 小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆ その他 (自由記述)	
-----------------	--

### Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○指摘されている通り、前期課程の収容定員に対する学生数の比率が0.40と法学研究科とともに最も低い一方で、各施策の進捗評価はC、またはDとなっています。この現状に対する認識を学内で共有することが求められます。(何か対策を根本から見直す必要はないのでしょうか)

【学内委員】

○収容定員と在籍学生数の関係が、前期課程では0.40、後期課程では0.12です。この状況は早急に改善すべきです。そのためには、内部の学生を受け入れる仕組みに工夫を加える社会人や留学生の受け入れを増加させるなどが考えられますが、学生の質的水準の維持が避けて通れない問題でしょう。

○「高度専門職業人の育成を目的とし、現実社会と連動した課題に取り組むため、多様な研究領域において、学際的・複合的なアプローチによる研究を行う」ために、開講科目が多いにも関わらず、ニーズが多様化して対応出来ているか難しい点だと思います。入学者のニーズに合わせて教員の専門領域にとどまらず、それに対応することが望まれます。

### Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし

### Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

5.0.0.S1	学生の多様性の確保ー入試形態数と入試形態別入学者の割合
5.0.0.S2	各学部の募集人員のうち、一般入試(センター利用入試を含む)の割合
5.0.0.S3	地域別入試会場別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数
5.0.0.S4	入試講評(問題と正解、正答率とそのコメント)の公表とその頒布数
5.0.0.S5	AO入試の受験者数と入学者数
5.0.0.S6	社会人学生数(学部別、研究科別)
5.0.0.S7	専門職大学院(KGPS)の受験者数および入学者数
5.0.0.S8	科目等履修生(教職免許状および博物館学芸員資格取得を含む)の入学者数
5.0.0.S9	聴講生の入学者数
5.0.0.S10	留学生数(学部別、研究科別)
5.0.0.S11	国別留学生数(学部別、研究科別)の経年変化
5.0.0.S12	学部における収容定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S13	学部における入学定員に対する入学者比率
5.0.0.S14	編入学定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S15	博士課程前期課程における、研究科ごとの収容定員に対する在籍学生数比率
5.0.0.S16	博士課程後期課程における、研究科ごとの収容定員に対する在学学生数比率
5.0.0.S17	学部・学科の退学者数
5.0.0.S18	学部・学科の編入学者数

<個別的な指標>
